

活動報告 わたしの住みたい街づくり

みんなが築く助け合い

肝付町「いったんもめんと結いの会」の取り組み

肝付町 いったんもめんと結いの会 会長 坂口 喜作 氏

富満 千津美 氏



皆さん、こんにちは。私は肝付町の「いったんもめんと結いの会」で会長をしております坂口喜作と申します。

私たちの活動は始まったばかりですので、未熟なところがたくさんあります。心を聞いていただけるとありがたいです。どうぞよろしくお願いいたします。

肝付町は鹿児島を中心部から車で約2時間ですが、町内の端から端までも2時間かかるとても広いまちでございます。特産品は伊勢エビ（えっがね）や辺塚だいたい、タンカンなど、海や山の恵み、牛や豚肉とおいしい食べ物がたくさんありますので、ぜひ遊びにいらしてください。（スライド 1, 2）

14歳の少年が射手となり900年もの伝統を守り続けている流鏝馬のある旧高山町とロケットのまち旧内之浦町が11年前に合併して肝付町となりました。町の人口は昨年8月末の時点で1万5,900人、高齢化率は39.6%です。

振興会数は132、そのうち高齢化率100%の振興会もある現状です。その中で、私は荒瀬振興会の会長6年目です。前回のイブシロンロケットの名前が「あらせ」となりましたが、川や滝、山に囲まれた集落です。昔からの言い伝いで「ゲゲゲの鬼太郎」に登場するきっかけとなった、子供たちをしつけるための妖怪いったんもめんがあらわれる権現山があります。

我が振興会は、一度はなくなった婦人会も復活して何とか伝統行事が続いていますが、近隣で頑張っているところもありますけれども、やむを得ず途絶えてしまったところも増えてきているのが現状です。（スライド 3）

荒瀬振興会がある地区は波野といいます。人口1,159人で、高齢化率が30%の振興会もあれば、66%の振興会もあります。その隣の沿岸部の地区は有明といいます。人口が207人、高齢化率44%が一番若い振興会、そして88%の振興会もあり、日中はほぼ高齢化率100%となり

ます。小学校は13年前に統廃合となっており、地区行事なども含めて別々に活動していた地域で、一緒に地域について考え合うことは初めてではないかと。この活動の紹介を今からしたいと思います。(スライド 4)

昨年度、社会福祉協議会から声がかかり、高齢化率40%を超えている大分県の竹田市での助け合い活動の視察に肝付町各地域からの代表で行きました。社協や包括の方にはサロンの支援や避難訓練などで日ごろからサポートしてもらっているので、「じゃあ行ってみようかね」くらいの軽い気持ちで参加しました。視察後、うちの地域も考えていかなきゃいけないという気持ちになって、地域コーディネーターの富満さんに相談したところ、まずは語り合いの会をしてみませんかということで、人集めから始めました。(スライド 6)

この波野地区、有明地区の振興会長、民生委員、サロンリーダーさんにお声かけし、「地域を語ろう会」と命名し、一昨年の1月より5回シリーズの計画で話し合いをしてみました。途中からは当時の小学校の校長先生や地域のために一緒に活動したいという仲間が加わってくれました。3回目までは富満さんのテーマに合わせて、それ以降はみんなでテーマを出し合って話し合いを行いました。そうしますとみんな5回では足りないと感じ、まだまだ続けていきたい気持ちになりました。歴史を大事にしながらみんなで助け合えるような活動を続けてみようと「いったんもめんと結いの会」グループが誕生しました。

そうしていくうちに、三つの課題が出てきました。(スライド 7)

一つ目は、地域を知っているようで現状を知らない、地域のよさを実は語れなくなっているのではということで、自分たちの地域をめぐり、

知るという遠足を企画してみました。たまたま肝付町に視察に来ていた京都大卒業生のチーム7名も一緒に加わってくれました。すると、私たちにとっては当たり前の漁も、ミカン園のトロッコも、滝も、ハウスキュウリの収穫も、貝のミナ取りも、全てに感動してくれました。それらを通して、私たちは子や孫に地域のよさをちゃんと伝えられていたか、悲観的な発言をしていなかったかなどとみんなで振り返るとてもよい体験をしました。

二つ目は、子育てに関して理解しているようで、昔の自分たちのころと比べているのではないか、今はどんなことで喜び、悩んでいるのか聞いてみよう、一からアンケートづくりもして調査してみました。90%がお嫁に来てくださったお母さんからの回答でした。ちょうどそのころ、指導者がいないという理由で少年団の空手部がなくなったということもあったためか、習い事があつたらいいな、自然の中で遊ばせたいけどなかなか時間がとれない、安心して遊べる場所がないなどの項目が多く上がりました。隣の地域には学童があるため、それではない助け合いで何か子育てに協力できる方法を模索し始めました。

三つ目は、たまたまでしたが、おひとり暮らしの男性の方で、入院中に家の中を猿が荒らし、物の散乱も含めて帰れる状況ではない、でも家に帰りたいという思いが強いという方がいらっしゃいました。唯一のご家族もさらにご高齢で要介護状態ということで、地域コーディネーターの富満さんに相談があり、そのころちょうど高齢者の困り事について語り合いをしていたタイミングから、ご本人の了解を得て、みんなでその方がどうしたら家に帰れるか一緒に考えました。みんなでボランティアで掃除して、その方に家に帰ってきてもらおうという意見でまとめ、4日後には実行となりました。布

団や毛布、生活必需品の提供もあり、1週間後に帰ってきました。その方はとても喜んでくださって、入院前には考えられないくらいご近所さんともつき合い、サロンにも参加するようになりました。誰かのためにボランティアすることを自分たちの喜び体験として一緒に感じ合えることは私たちにとってもとても大きかったように感じます。

そんな幾つもの体験や話し合いをまとめると、自分たちの地域の福祉活動計画ができました。その中で、私たち「いったんもめんと結いの会」ができそうなことややってみたいこととして、一つ目に、子供たちが安心できる居場所づくり、二つ目として、みんなの食支援活動が上がってきました。(スライド 8)

それ以前からみんなで活動拠点場所としての空き家を探しておりました。7件目で、93歳の方が半年前まで住んでいらっしゃった家を地域のために役立ててほしいと息子さんが申し出て下さいました。しかも無償で貸して下さいますと。このタイミングでのこのご縁はともうれしかったのを覚えています。昭和初期のころ駄菓子屋であり、子供たちの集まるお家であったと聞き、ますますうれしくなったところでした。(スライド 9)

自分たちのこの活動に高齢者生きがい活動促進事業の国県の補助金をいただけることになりまして、手づくりでの改修などの準備資金として大事に使わせていただきました。活動に賛同して下さった地域の大先輩が手づくりの看板や案内板もつくってくださり、ほんとうに心強いスタートを切ることができたと思っております。(スライド 10)

昨年度の3月に無事「いったんもめんと結いの家」としてオープンし、毎週水曜日にお届けする「おかずおすそわけ見守り事業」を始めま

した。これは女性の方々10名前後で季節に合わせた献立を立てて、調理までしています。2名から3名は前日の食材買い出しや当日の準備、片づけまでと責任のある仕事として1回1,500円の有償ボランティア、それ以外の方々は無償のボランティアの仕組みをつくってみました。これには頭が下がる思いで、ほんとうにみんな頑張ってくれています。

頼みたい方には事前にチケットを購入していただいて、お裾分けが届いたときに1枚のチケットと交換をするという形式にしました。そして、お野菜や魚、お米などを提供いただいたら「ありがとう券」を発行します。3枚たまると「おすそわけ弁当」を一つプレゼントの仕組み。そうすると、畑で一度にたくさんできたお野菜を提供いただいたり、それがお弁当の材料となったり、お互いの喜びにつながっております。

始まって半年が過ぎましたが、注文される方はほとんどがご高齢な方です。届けたときに体調不良や熱中症の症状になっていたことや、家にいらっしゃらなくて捜すこともありました。外で待っていてくださるほど喜んでくださる方々もいらっしゃいます。安否確認につながっているなどの報告を聞くとほんとうにうれしくなります。おかずを通して時にはもっとやわらかいほうがよかったなどと厳しくも温かくもあるご意見をいただくこともありますが、みんなで試行錯誤しながら奮闘してくれています。

私たち男性は何をしているかといいますと、まずは活動しやすいように応援。結いの家の環境整備をしながら、子ども地域クラブの先生になれるように頑張っています。宿題を教えることはなかなかできませんが、一緒に悩むことはできます。そして、地域の中の自然を生かした遊びを一緒にしながら、手づくりご飯を子供たちと一緒に「うまい」と言いながら食べています。(スライド 11)

現在、子ども地域クラブは 13 名の登録があります。1 回の活動にチケットを 1 枚持ってやってきましたが、この半年間の中で実は登録者以外で遊びにやってくる子もおり、家庭の事情でチケットを買うことができない子供がいるという問題に当たりました。その子たちこそ地域でサポートできることはないだろうかということで話し合いを重ね、8 月から、土曜日学校のある日に子供たちも大人も、誰でも食べに来ていい「みんなの食堂」を始めました。子供は無料、大人は 200 円です。

当日何来るかわからないことに不安もありましたが、調整しやすいカレーやシチュー、豚汁など、メニューの工夫をしながら挑戦しています。今月は約 30 名の子供たちと、先生などを含め大人は 7 名でした。

食べ終わった子供たちは、宿題を広げたり、

庭で鬼ごっこをしたりとなかなか帰らず、楽しそうに過ごしています。安心できる居場所につながってきているのかなと感じているところです。

以上が、この活動が始まってから模索をしながらの 9 カ月の報告でした。

どこまで楽しみながら、悩みながら続けていけるかわかりませんが、社会福祉協議会や包括支援センターに相談に乗ってもらいながら、地域のために、自分のために、この 19 名の「いったんもめんと結いの会」の志を一緒だと感じてもらえる仲間がゆるく増えていくことを願っております。

ご清聴ありがとうございました。

(スライド 12)